

白い森小国から



ついこの前まで「明けましておめでとう」とか言っていたがもう3月ですね。いよいよ待ちに待っていた春が来ます。豪雪地帯の小国町も今年は雪が少なく、例年の半分以下でした。除雪する時間が少ないから仕事ははかどります!(笑)

文/今修 写真/編集部

純正アイテムが大人気!

前号でちょっと触れた【定番なようで知らない人が多いカスタムメニュー】ですが、本当に知らない人が多かったようで、もの凄いな注文で自分もビックリしています。一番注文が多かったのが【ドリンクホルダーの背もたれ付】で、次が【時間調整付間欠ワイパー】。購入されたお客様のコメントが多かったのが「ジムニー純正のカップホルダーの位置が後ろ側なので使いづらい」とか「純正のカップホルダーを使う場合、運転中だと視線をそらさなければならぬので危険だった」と言うこと。

時間調整付間欠ワイパーもカップホルダーも、どちらもメーカーの純正品なので作りは折り紙つき。ただし、メーカーも大量には在庫するパーツではないため、度々欠品になっているようです。

今後も【有名なようで知らない人が多いカスタムメニュー】をちょろちょろと紹介していきますので、知らなかった人は是非試してみてください。

サビ防止は念入りに!

今回は、現在ジムニーに乗っている方も、これからジムニーを購入される方も是非これだけはやって欲しい事を紹介します。

ジムニーオーナーにお聞きしますが、ジムニーの泣き所は何ですか? ハンドルのジャダー? シートベルトの巻取りが悪い? MTシフトがフニャフニャ? 全部当てはまりますが、まだありますよね。取り返しのきかない泣き所が! 気が付かない人は日頃、愛車ジムニー君のお手入れがおろそかになっているのでは…?

大半の人は気が付いたと思いますが、錆です。サビ! とにかくジムニーはサビに

弱いのです。製造が古いSJ10やSJ30は当時の技術力の問題で仕方ないにしても、JA11以降現在のJB23までもがサビには弱い。新型ジムニーの登場がささやかれています、スズキにはとにかくサビ対策を何とかお願いしたいですね。

まあ新型ジムニーの話は置いておくと、JA11やJA22の時はボディが主にサビていましたが、JB23になってからはフレームの方にサビの被害が大きく出て来ています。さてどうすれば良いのでしょうか? 答えは簡単です!

- ①乗ったらすぐに洗車し飛び石などがあればそこから錆びないように補修する。
- ②サビない施工をジムニー専門店で行う。

パツと見は綺麗なボディを保っているけれど…



日頃の足として使われているJB23。ボディには艶があり、凹んでいる箇所もなく、健康状態は非常に良さそうなのだが、下回りは→→→

③サビて穴が空いたらジムニー専門店に行き、サビていないジムニーを購入する。どれを選ぶかはあなた次第ですが一般的には②をお勧めします。

この②の【錆びない施工をジムニー専門店で行う】ですが、ジムニー専門店でもサビ止めの施工は出来ます。あえてジムニー専門店で行うのは、サビが発生する部分を隅々まで把握しているから。お金をかけて的を外さずサビ止め施工されても困りますからね。ここはあえてジムニー専門店での施工を強くお勧めします!

このサビ止めの溶剤も沢山の種類がありまして、その対応年数も様々。なんと10年保証付きなんて物もあります。色も黒、白、赤、クリアーなど豊富にありますし、仕上がりが完全に乾いて触ってもべつつかないものもあれば、乾いても柔らかくべつつかないものもあります。このように沢山の種類があるので、施工されるお店で相談し実際にどんな仕上がりになるか見てから決められた方が良いでしょう。

サビ止め施行に関して

サビ止めですが、新車に施工する場合と中古車に施工する場合は内容が異なります。新車に施工する場合、基本的にサビは無いので、そのまま施工しても問題はありません。これに対して、すでにサビが出ている中古車に施工する場合、まずはその錆を取り除かなければなりません。一

回サビが発生すると、その進行は簡単には止まらないからです。軽いサビであれば削って落とせますが、深いサビは進行を止める溶剤を使う必要があります。

サビで一般的なのは赤サビ。これは進行型タイプで、もうひとつ、黒サビの進行を防ぐ黒サビがあります。詳しく説明すると長くなるので、詳細はネットで調べて下さい(笑)。

で、この赤サビを黒サビに変える溶剤があるので、この溶剤を使ってからサビ止めの施工して下さい。そして最低下廻りは全部行いましょう。これは基本中の基本です。そしてここからがジムニーならではのポイントなので、泣きを見る前に一刻も早く施工することをお勧めします。

- ①運転席、助手席、バックドアの内側、特に合わせ目部分。
- ②リアフェンダー内側、特に合わせ目部分。
- ③ラジエーターコアサポート及びヘッドライト裏側のインナーフェンダー部分。
- ④フレーム等の内部及び袋構造の部分。

これらがジムニーならではのポイントです、特にフレーム内部は目に見えない部分ですので、サビ転換施工してからのサビ止めに推奨します。仕上がりが、溶剤が厚く塗られるものがある場合は、意外に薄く仕上がります。薄ければダメで厚ければ良いとか一概に言えないのですが、重要なのは収縮性が無いとダメということ。収縮性が無いと飛び石などで塗膜がはがれやすいからです。

この収縮性を持たせるために多くのサ

ビ止め溶剤は乾いても表面が柔らかくベタベタするのですが、このベタベタもジムニーでは厄介で、砂や砂利が付いて取れなくなったりする場合があります。そしてネジ山が見えないぐらいに厚塗りすると、施工後のメンテナンスに影響して、ナットが非常に外れにくくなります。溶剤がネジ山にこびりついて無理に回すとネジ山がダメになる時があるので要注意。こういった事はジムニー専門店でないとは分かりません。

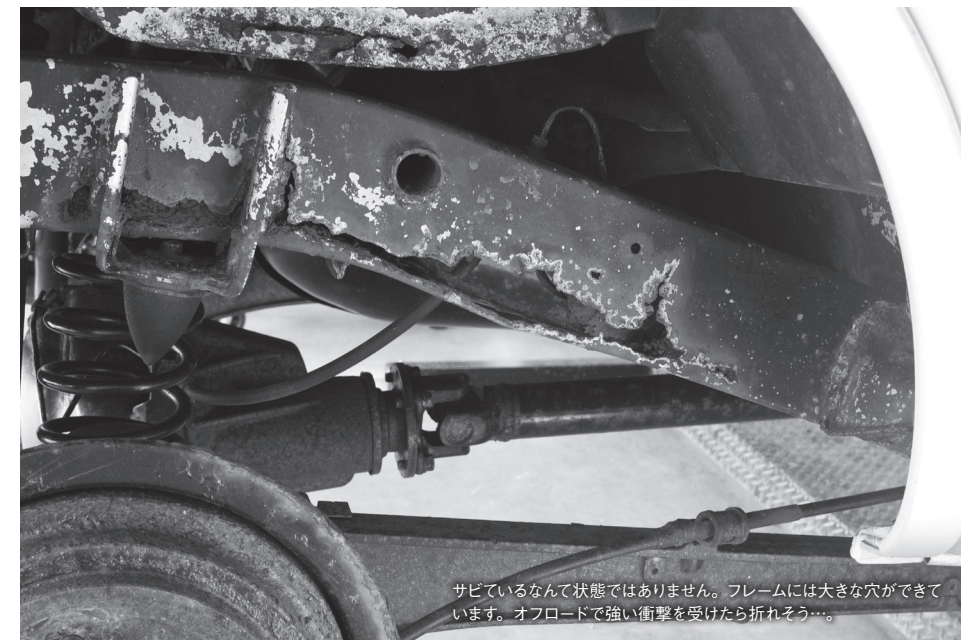
あ! ちなみに弊社のコイルスプリング『ブラックスペシャル』は、北米の豪雪地帯向けに開発された特別な粉体塗装で塗装されています。異なる塗装を二層に重ねる通称2コート塗装は、日本の某大手自動車メーカーも採用している特許取得済みの塗装方法です。

小石や飛び石などによる塗装のはがれにくさ(チッピング性能)は、1コート粉体塗装のなんと6倍! 塗装前の被膜処理に特殊な液体を使う事によって密着性を大幅に上げ、この性能を実現しています。

さらに、その被膜処理の効果により、仮に「飛び石によって塗装がはがれた!」としても、発生した錆は塗膜によって遮られ、サスペンション内部を浸食する事はありません。また、塩水噴霧試験では通常の2倍以上の塗膜性能を実現し、いかにサビに強いかが実証されている商品です!

k-proはご存知の通り山形県小国町の豪雪地帯にありますので、サビにはとてもうるさいのです!

洗車しないと新車でも1年でボロボロになってしまう



サビているなんて状態ではありません。フレームには大きな穴ができています。オフロードで強い衝撃を受けたら折れそう…



メンバーがサビにより、見事なまでボロボロ。これを見たら怖くて乗れません。



ショックアブソーバーのチューブも大きな穴が空いています。雪道を走った後、そのままにしておくとすぐにサビてきますよ!